

授 業 科 目 名	生 理 学 II	授 業 形 態	講 義
		配 当 学 期	1年（後期）
担 当 教 員 名	山 田 真 輔	単 位 数	1単位
		時 間 数	30時間
授業概要 学習目標	<p>〔授業概要〕</p> <p>生理学は生命現象の仕組みや意義について、総合的に解明する生命科学です。また、専門基礎分野の根幹を成す重要な教科であり、他の教科の礎ともなります。前期の生理学 I では主に植物機能を中心に解説しました。後期では主に動物機能を中心に学びます。すなわち、神経系、感覚器系、筋・骨格系です。また各系を単独で考えるのではなく、それぞれのつながりを、強いては前期で学んだ植物機能と動物機能の関係性についても触れていきます。</p> <p>〔学習目標〕</p> <p>各講義の開始時に2つの学習目標を設定します。それぞれについて各自説明できるようになってください。</p>		
授業回数	授業内容		
第 1 回	神経総論：神経組織の解剖生理学的特徴、神経の伝導と伝達		
第 2 回	末梢神経の分類と機能：脳神経の役割、自律神経の解剖学的特徴と役割		
第 3 回	中枢神経系：中枢神経系の解剖学的特徴、脳幹・間脳の解剖学的特徴と役割		
第 4 回	中枢神経系：睡眠と脳波について、辺縁系の解剖学的特徴と記憶の分類		
第 5 回	中枢神経系：大脳皮質の解剖学的特徴、基底核と小脳の解剖学的特徴と随意運動		
第 6 回	感覚器系：感覚器系の総論と分類について、皮膚感覚の受容器と感覚神経の種類と経路		
第 7 回	感覚器系：深部感覚の受容器（筋紡錘）と感覚神経、視覚器の解剖学的特徴と機能		
第 8 回	感覚器系：聴覚と平衡感覚の解剖学的特徴と役割、その他、特殊感覚について		
第 9 回	筋・骨格系：筋の分類と骨格筋の解剖学的特徴と興奮収縮連関について		
第 10 回	筋・骨格系：運動単位と神経筋支配比について、骨の解剖学的特徴とリモデリング		
第 11 回	調節系：調節系総論、自律神経系と内分泌系の役割、各内分泌腺とホルモンの役割		
第 12 回	調節系：各内分泌腺とホルモンの役割		
第 13 回	栄養と代謝：三大栄養素の同化作用と異化作用、エネルギー代謝について		
第 14 回	運動生理学：運動時の身体の反応、酸素摂取量と嫌気性代謝閾値について		
第 15 回	まとめ		
評価方法	期末試験にて評価を行う（100%）		
教科書 参考図書	〔教科書〕 標準理学療法学 作業療法学専門基礎分野「生理学」第4版 医学書院		
履修上の 留意点	生理学は専門基礎分野の最も基礎となる分野です。学習した内容がすべての分野につながっていきます。		
メッセージ	学習範囲が広く覚えることがたくさんありますが、興味を持って前向きに取り組んで頂きたい		